

U.S. Indicators

発表日: 2020年5月25日(月)

行動制限緩和で5月に米企業活動悪化ペース鈍化

～ロックダウンの段階的解除でPMIは予想通り前月比上昇も大幅な悪化継続を示す～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

米国では、3月中旬以降の新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためのロックダウンや、外出制限、イベントの中止、店舗の休業、工場の操業停止による経済活動の休止を背景に、企業活動は急激に悪化している。特に、感染予防のためには社会的な距離を取らざるを得ないことからサービス業が著しく悪化している。また、製造業は新型コロナウイルスのパンデミックを背景とした世界経済の縮小、サプライチェーンの毀損、原油価格の急落による石油探査・掘削の減少に加えて、雇用情勢の悪化や外出規制などによる国内需要の縮小の影響を受け、悪化している。ただし、4月末から5月20日までに全米50州で行動制限が緩和されたため、足元で米国の企業活動の悪化ペースは鈍化している。

20年5月の米国総合購買担当者指数（PMI）の速報値（集計期間5月12日～20日）は、ロックダウンの段階的な解除を背景に36.4、前月比+9.4%pと4カ月ぶりに上昇した。5月は製造業が39.8と前月比3.7%p上昇したほか、サービス業が36.9と前月比10.2%p上昇した。前月比で上昇したが、拡大縮小の分岐点である50を大幅に下回っており、企業活動の縮小が続いていることを示している。先行きを占ううえで重要な新規受注はキャンセルや先送りによって、大幅に悪化したままである。

製造業の構成項目をみると、生産34.1（前月28.8）、新規受注34.2（前月27.7）、雇用38.2（前月37.7）、在庫38.4（前月36.4）と全構成項目が上昇したが、依然低い水準にとどまっている。寄与度では新規受注が前月比+1.69%p、生産が前月比+1.19%p、雇用が前月比+0.11%p、入荷遅延が前月比+0.09%p、在庫が前月比+0.02%pの押し上げ寄与となった。一方、構成項目ではない輸出受注は25.4（前月24.9）と低い水準にとどまっており、グローバル経済悪化の影響を受けていることを示している。

サービス業では、活動指数36.9（前月26.7）、新規受注36.5（前月26.1）、雇用39.2（35.6）と上昇したが、50を大幅に下回っている。一方、見通しを示す「将来の活動指数」が46.4（36.2）と2カ月連続で50を下回ったが、前月から上昇しており、悲観的な見方が弱まっている。

企業活動は4-6月期にロックダウンの実施により大きく落ち込んだ後、7-9期に行動制限の緩和によって拡大に転じると予想される。ただし、安全な新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発・生産には時間がかかるため、ソーシャルディスタンスを取らざるを得ないことから、企業活動の回復ペースは抑制されよう。リスクとしては、感染者数が増加を続ける中で、経済活動の再開を優先して行動制限の緩和を行った州が多くあり、感染拡大が再加速すれば、行動制限が再び強化される可能性がある。

(図表) 米国購買担当者指数 (PMI) の推移



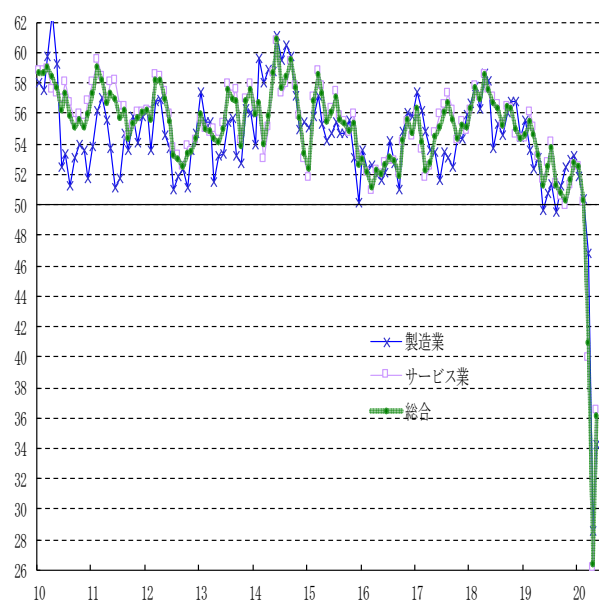
(出所) IHS Markit

(図表) 米国生産・活動指数の推移



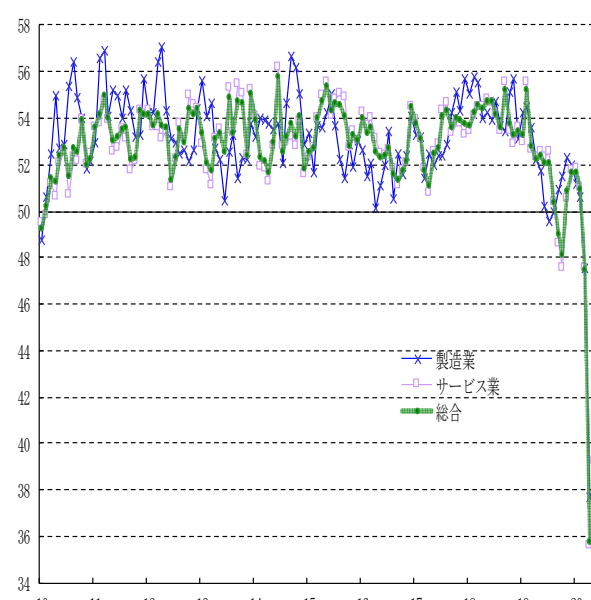
(出所) IHS Markit

(図表) 米国新規受注指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

(図表) 米国雇用指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

